

No. 955

# 黄金週間

4月29日、天皇誕生日。

新緑に映える皇居では満71歳になられた天皇陛下をお祝いする一般参賀が行なわれた。好天に恵まれ参賀の入出は5万6千人を数え、中には倒れる人も出るにぎわい。日の丸の小旗がうちふられ、バンザイの声が皇居の庭にひびきわたり、いよいよ今日から黄金週間のスタート。

どこへ流れ行くのかこの人波。9日間にわたる飛石連休に、行楽地へ出かける人々は、2千5百万人とか。ターミナル駅はどこも満員。並んで待たされ行く前に疲れはてた子供達、パパ達は一様にしぶい顔。喜んだのは国鉄さん。お客をいっぱいつめこんで「ひかり」は西へ、収入見込が3百億円、黄金週間をつっぱしる。

乗り遅れたパパ達も家庭サービスに大忙わ、西へ東へ子供の気のむくまま、お猿もまねてえっちらこ。早くも閉店したプールにもパパの顔、浮かれませんと、浮袋を枕に狸寝入り。パパ達にとっては黄金放出週間とはあいな

った。それでは賃上げをしてもらわなければと、メーデーに集う。雨にも負けず、風にも負けず、集った人の数は20と5万。不満、不満、不満と、日本の不満が結集された。ここの主役はなんといっても総理大臣佐藤栄作。なぐられ、けられ、はてはゆすられる。そんなに総理のイスを手離したくないのかと、皆が皆、「佐藤内閣打倒」を叫ぶ。

こんな騒然とした黄金週間を横眼で見ながら、横井庄一さん。ひとり日の丸をたてて、日本の行末を案じているのだろうか。